

令和4年6月30日(木) 博物館地域説明会(白糸出張所)

<質疑応答>

・質問者①

質問：展示物がまだ決まっていないとのことですが、実際に何を展示するのですか？

回答：一つには、今日学芸員が説明したような物をパネルにして展示していくというものがあります。

もう一つは市の指定文化財の中で出せる物を交代で展示していきます。

具体的な事は、例えば縄文時代を中心にするのか、富士山の信仰を中心にするのか、等はこれから議論していきます。

質問：私は商売をやっていますが、普通は売るものを決めてから建物を作ります。展示する物が分からないのに建物を作るとするのは商売上はありえないことです。

なぜ建物をまず造るという構想なのでしょう。

回答：建物を造ることからスタートを切った訳ではなく、富士宮市にある文化財をこれからのように伝えていくのかといったときに、やはり皆さんに知っていただかなければいけないということで展示が必要になり、展示をするためには調査研究、保管する場所が必要になります。

文化財の中にはすぐ壊れ、傷んでしまうものもあるので、施設的にはある程度のものが必要、というところからスタートしています。

質問：もう一つよろしいですか。今回の構想は、文化継承という意味では素晴らしいと思います。

聞いた話によると、これは元々バブルの時代にあった構想ということですが、何故今更挙げるのでしょうか。コロナが終わった直後というのはタイミングが悪すぎます。正直、最近町中を見ると箱物がすごく多いんですね。そんなに必要なのかなと思います。聞いたところでは子供達の為にといいことですが、これは本当に子供達に求められているものなのでしょうか。財源が潤沢に有るなら賛成ですが、この厳しい時代の中で、バブルの時にあったものをいまさら再稼働するということは、税金と切っても切れない話なので、子供たちだって二十億円前後負担する、毎年管理費が一億～二億かかる、これは誰が払うのですか、という話ですよ。構想自体は素晴らしいと思いますし大賛成なのですが、財源をどう確保するかというのが課題だと思いますし、継承するなら別の方法も色々あるのではないのでしょうか。再検討して頂いた方が市民としては納得です。その辺りはいかがですか。

回答：まず、バブル崩壊で以前の計画が頓挫したということですが、バブルのずっと前から内々作られていた計画を、本格的に考え出したらバブルが崩壊してしまったという経緯があります。当時は補助金もあり、いろいろなところ(自治体)の博物館建設が

進んでいた中で検討されました。一度頓挫した後も、必要性が無くなった訳ではないため計画が再開しました。

財政的なことについては財政、企画部門と今後の見通しを検討しながら、このくらいだったら市でちゃんとやっていけるという所を考えながら進めていますので、おっしゃるとおり、他に色々な方法も考えています。ただ、今まで進めている中では、歩く博物館で、現地でその物を見てもらおうということをやっておりますが、やはりどうしても伝わりきりません。本物を見られない、ということもありますので、博物館を造って収蔵環境を整える等をこれからやっていかななくてはならないと考えています。

・質問者②

質問：博物館を作ることは決定なのですか？

回答：今現在の状況を申し上げますとまだ決定したわけではありません。基本構想としてこういうものを造ったらどうだろうということを行政が提案している状況です。

質問：まず初めに富士宮市にこの博物館が必要かどうか、今なのかどうか、市民が13万人いる中で、みんな作ってほしいという中で中身の問題に移ればいいのですが、話を聞いているともう確定で27年には完成と、ちょっとこれは行き過ぎているのではないかなと思います。今年度、調査費の予算は通りましたが、市民としては、市議員は何をボケっとしてるんだ、なぜ市民にそれを伝えないのか、と感じます。

今回はたまたま地元のヨシマサさんが一般質問で議会に立ちますよね。議事録の公開をして欲しいです。これは密室で決めているのですか？ 決定なら決定で話をする、決定ではなくこれから市民の皆さんと考えていきましょう、と言うのなら分かりますよ。こんなに22億かけなくても、2億3億でも素晴らしいものはできますよ。

回答：最初の、商売をやってらっしゃる方の質問について、展示物が決まっていないというのは、展示したい物は色々あるがどれに絞って展示しようかということです。お店に例えると、売りたいものが色々あってどれを売ろうか絞れていないという状態です。学芸員からすると、色々な分野があって、これをやりたい、あれを展示したいという思いがある中で調整をしていく所です。

展示については企画展というものができますので、例えば今回は大河ドラマ『鎌倉殿の十三人』に合わせた、富士宮と関りがある展示や、次は『どうする家康』に関係する展示など、色々できます。

何も決まっていないのに博物館を作るということではなく、むしろ展示したいものがあって、それを絞れず、まだもっと先の計画を作らないとそこまで辿り着いていない、ということで理解してください。

質問：まず、箱（建物）を造るのかどうかはっきりして欲しいです。

回答：箱を造るか造らないかについては、この構想を作ったのも、博物館ってどういうもの

かしっかり皆にわかるような数字や、例えばどのくらいの規模かというものをお示ししないと、市民の皆さんの博物館のイメージが湧かないのではないかとご指摘があり、構想を作り各地区に説明に行っています。

通常ですとこういう説明会もなく、建てるということで構想を作り、これどうですかということで進めていきます。ただ、皆さんにきちんと説明した上で進めようということでこのような機会を頂いています。

質問：賛成と反対の数はどのくらいですか？

回答：そういう（段階）ではなく、まず説明して、今こういうご意見いただく方もいますけど、実は早く作ってもらいたいという市民の方も沢山居ます。

なぜお金をかけるんだ、なぜ今かということはよく出る話なのですが、博物館活動の根幹は資料と情報を収集し、展示や学習支援を通して共有するとともに、人類共通の遺産として次世代につなぐことです。

今は博物館が無く、ある文化財を保管しているだけなんです。よその市に貸したことはありますが富士宮市民に見せたことはありません。そういった物もあります。

ですので、博物館を造り市民の皆様に富士宮の良いところを知って好きになってもらい、誇りを持って生活してもらいたいです。子供たちが将来外に出て、『今度富士山の近くに行くんだけどどこに行ったらいいか』と聞かれた時に、『白糸ノ滝にはこんな歴史があるんだよ』とか、『晴れてたら山宮に行ったらいいよ、あそこはお社がなくて富士山を拝むんだよ』とか、そういった事を言える子供たちを育てていけば、観光で行く人も増えるかもしれません。

その人も、もう一回富士宮に戻りたいとか、やっぱり富士宮っていいなと思っていただけのための投資だと考えています

博物館の果たす役割としては『社会情勢の変化に振り回されることなくその役割を果たすことが人類社会に対する責務である』、これは文科省のホームページの中に載っていたものを今読ませて頂いています。そういうものを我々は造りたいということで、今説明させていただいています。

賛成反対という意見もありますが、賛成していただいている方もいて、多くの声も届いていることをご理解いただきたいと思います。

質問：そこまで言うなら市民から賛成・反対を評決でも住民投票でもとる、だれも作っちゃいけないとは言っていない、一番の基本は22億が市民の負担だということです。

回答：普通の手続きとして進めさせてください。例えばスポーツ施設を整備しようとしたとき、『僕は使わないからそんなのいらない』という声があるから『じゃあ市民投票やって』と言われてそこでやるものではないでしょう。

質問：そんなこと言っていない。やることはいい。

回答：やっていることは同じと、今お伝えしているんです。

質問：なんで今、先走って 22 億の予算なんかとるのですか？なんで 22 億って決まっているのですか？

回答：博物館ってどういうもので、いくらかかるのか分からないのである程度そういうスケール感とか、一回出してみようということで……

質問：まだ決まっていらないだろう？

回答：そういうことです。それを今市民に説明している機会です。

質問：それを聞いたかったんです。作っちゃいけないとは言っていません。

#### ・質問者③

質問：だから財政の話ですよ。素晴らしいものを作ろうとしているのは分かります。

国から各自治体の文化遺産は地元で何とかしていただきたいと、おそらくそれは国の財源が厳しくなってきたからだと思うんですね。国の財源が厳しいということは、地方はなおさら厳しいじゃないですか。

そこで財源を確保するために何かを作って利益を生み出して、そこから博物館を作るならまだ分かります。それをやってもらいたいと思いますし、さらに、僕は商売をやっていて、色々なお客さんと喋るのですが、一番文化継承で手っ取り早いのは、年寄りから色々な話をする事です。今、年寄りが居ないじゃないですか、皆老人ホームや施設にいます。でしたら空いている所を使って、子供と年寄りを会わせる機会を作ってはどうでしょうか。年寄りから学ぶことは色々ありますし、わざわざ博物館に行って、それも大事だと思いますが、人から伝えていくのが本当の文化ではないでしょうか。その辺りも含めて検討していただきたいです。

回答：私どもも、そういったことができればいいと思っています。子供たちに継承するところに重点を置いているというのは、高齢者の方々（の知識）を含めて、残っているものを子供たちに繋げていくために色々なものを見て勉強してもらいたい、そういう思いの中での話ですので、先程おっしゃられたお年寄りの方と一緒に空間でお話を聞く機会は造ってもらいたいと思っています。

#### ・質問者②

質問：じゃあ意見を言える場を沢山作りましょう。市民との会話だから。

回答：こういった機会を持つのはなかなか難しいと思いますので、ご意見はいつでも文化課にお寄せいただければ検討させていただきます。

質問：たかだか 13 回やったって、定員は 516 人です。13 万人いる中で 516 人と話したからってそういうもんじゃないんだから、一般市民の声を聞いたうえで作るか作らないか、それから中身の話でしょ。

#### ・質問者④

質問：家にある古いものを引き継いでいくことは、ある程度の金銭的な負担があるんですね。

それは自分の子供に継承していかなきゃいけないということがあって、この歳になって家の者と話し合っ整理していつているんですが、常々感じるのは、古いものを維持管理していくにはそれなりのお金がかかるし、現状として放っておくとそういった物が無くなっていつてしまうのが現実としてあるなと思います。今富士宮市の中でそういった物が失われつつあるなということで、こういった構想が出てきたのかなと、僕は話を聞いていてそう思いました。そういう意味で意義はあると思います。

先ほどから意見が出ているように、ただでは出来ないことですから、そこにかける経費をどこから持ってくるんだという話は当然あると思います。

建設の費用は別として、一番問題なのは建ってしまった物をどう維持していくのかということが必ず議論に出てきます。そうしたことを考えたときに、いかに博物館による収入を上げていき、その中で維持費をまかなって文化財を後世に伝えていく正しい道筋を立てないといけないのですが、そのためには造られた博物館なり何なり、それなりに皆さんが楽しんで見てもらえるようなものじゃなければいけないと思います。

今日の話聞いた限りでは、あまり個人的にはわくわくして見に行きたくなるような印象を受けませんでした。確かに大河ドラマの時流に乗って展示物をやるのも一つの考え方だと思いますが、もう少し、博物館を作るならどのように見せるのか、どう感じるのかとか、ソフトの部分を煮詰めてもらって、いかに博物館が一般市民の生活の中に密着するようになるかということが出来ない、結局また一つ新しい箱モノが終わってしまうので。

世の中には人が沢山来るような博物館もあるわけで、動物園で展示方法を変えて人が沢山来た旭山動物園、それで行動展示が全国に広まったように、そういう見せ方をもう少し考えて頂けたら、もっと賛成出来るかなと思いました。

回答：ありがとうございます。私どももこれから検討していきたいと思います。今はまだどういう展示をしていこうかということには踏み込んで話しておりませんので、これからそういった話を進めていけたらと思います。

#### ・質問者⑤

質問：博物館という発想がそもそも昭和だなというのを、僕らの世代は感じています。昭和の人たちが古い発想で話を進めているんだなという印象を受けます。これを造って五十年後の子供たちが本当に喜ぶものになるのでしょうか。

バーチャルリアリティ等もありますし、学校の授業もタブレットを使っていますよね、そういう未来から見た歴史文化の継承、伝わる方法を考えていただきたいと思います。

回答：展示技術という点では非常に重要だと思いますが、ただ拠点となる場所は必要になります。そういった点で我々も別な視点を持ちながら整備検討を進めていけたらと思います。